

群馬県薬務課 御中

分析レポート

若者世代が献血をもっと身近に感じ、もっと行きたくなるアイデアを募集！

PoliPoli Gov

2026年3月9日

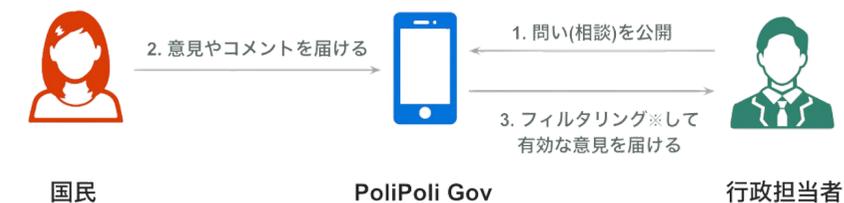


意見募集の概要・実施結果

- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
 - 若者世代が献血をもっと身近に感じ、もっと行きたくなるアイデアを募集！
- **調査期間**：2025/11/13～2026/12/31（49日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：2,361PV
- **総コメントユーザー数**：348人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：436件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：
 - あなたと群馬県の関わり
 - 群馬に居住・通勤・通学している
 - 過去、群馬に居住・通勤/通学した
 - 観光などで群馬を訪れた
 - 群馬を訪れたことはない
 - あなたの年代
 - 高校生
 - 大学生
 - 10代（高校・大学以外）
 - 20代（学生除く）
 - 30代
 - 40代
 - 50代
 - 60代
 - 70代以上

意見募集の概要・実施結果

意見募集の仕組み



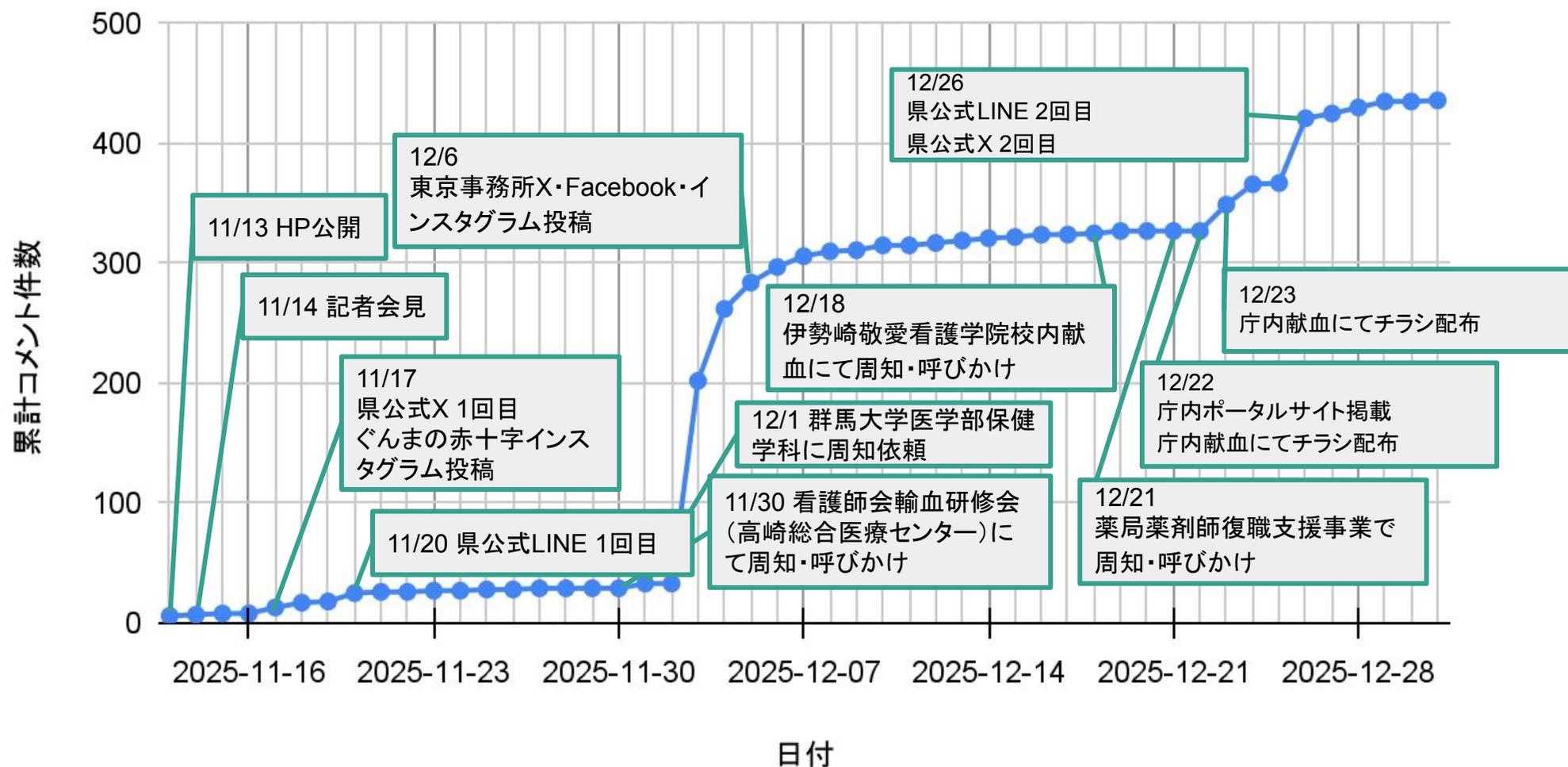
※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



URL: <https://polipoli-gov.com/issues/fMsNimrfoW1D2S4YhbtZ>

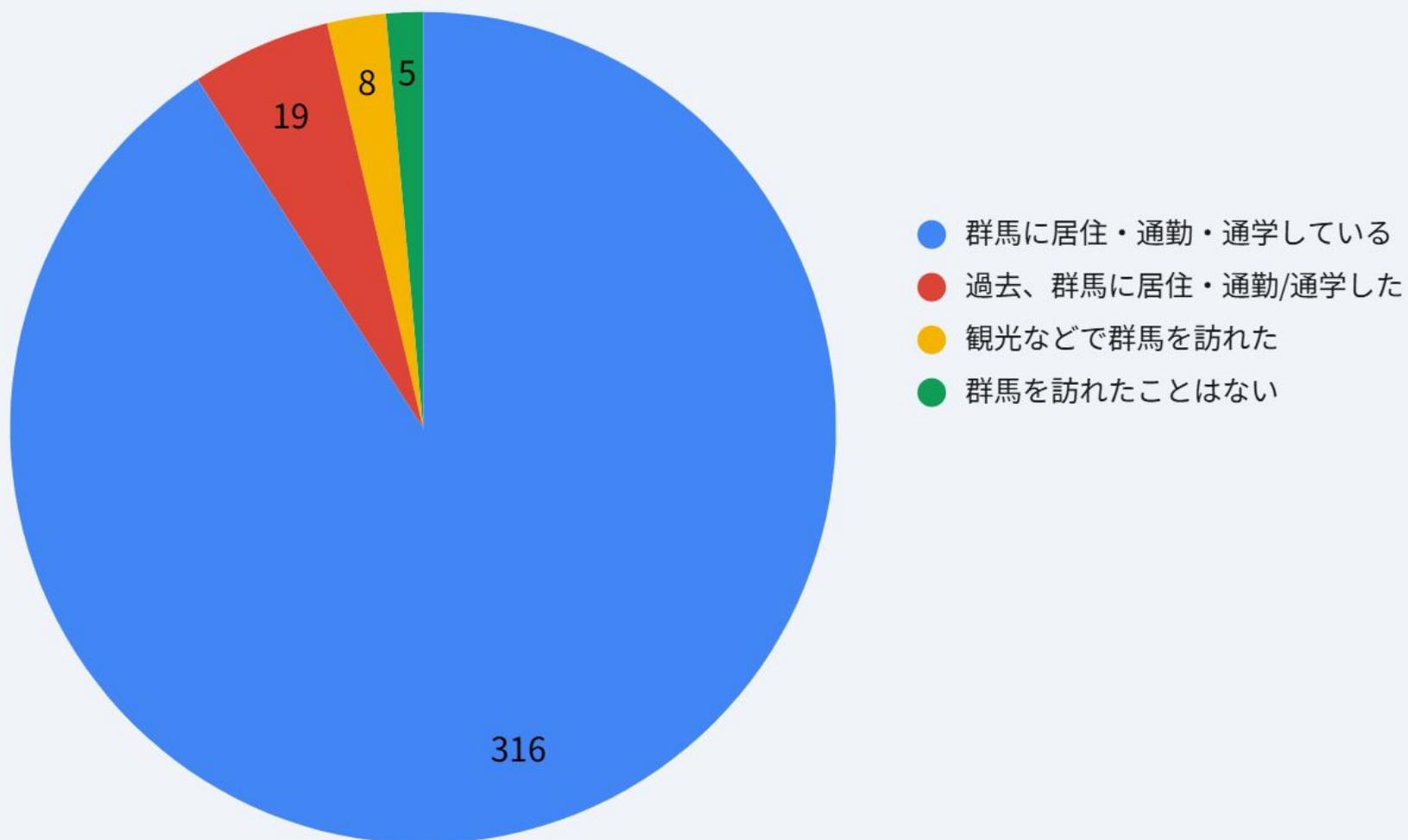
コメント数推移

コメント数推移(日次)



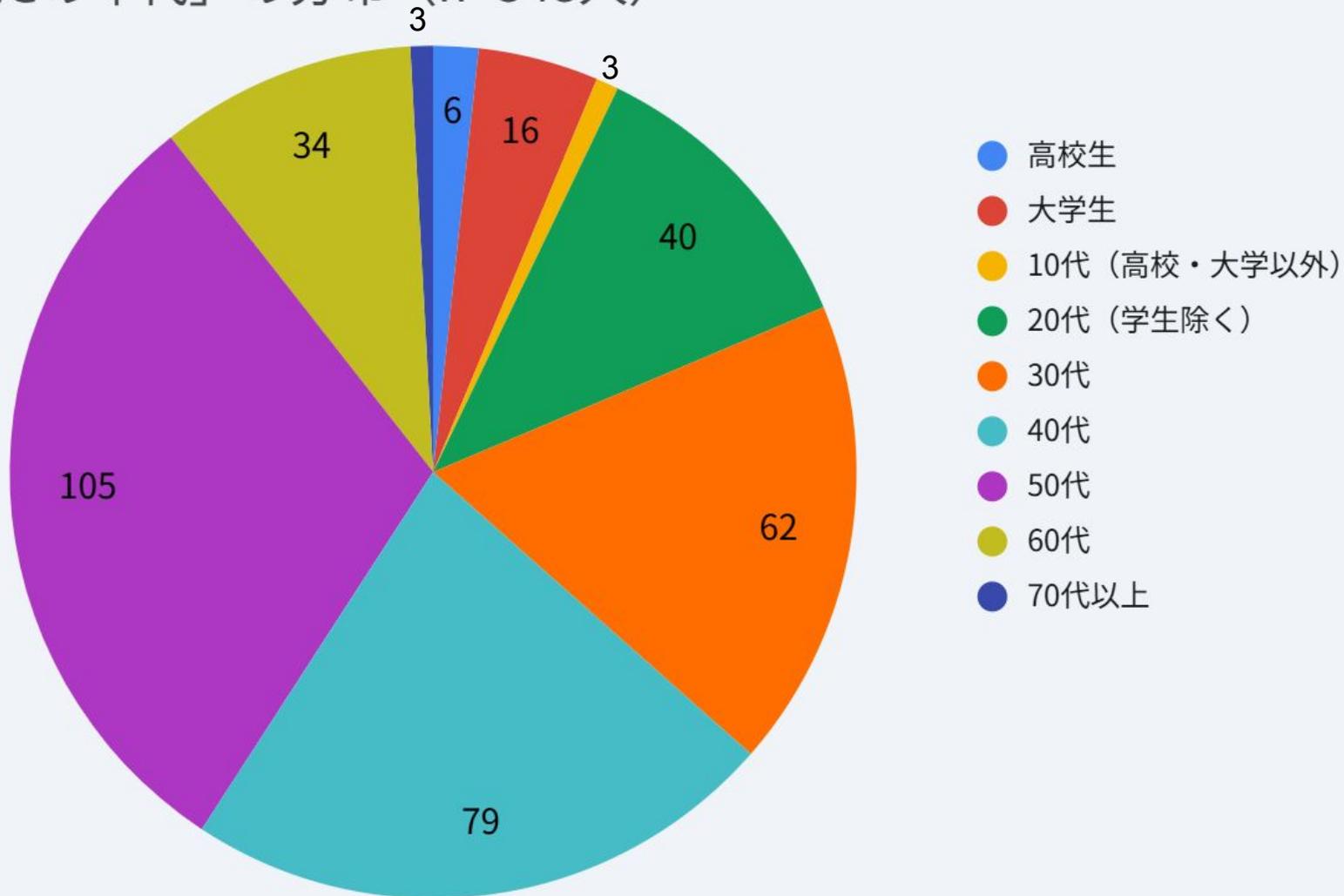
意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

群馬県との関わり (n=348人)



意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

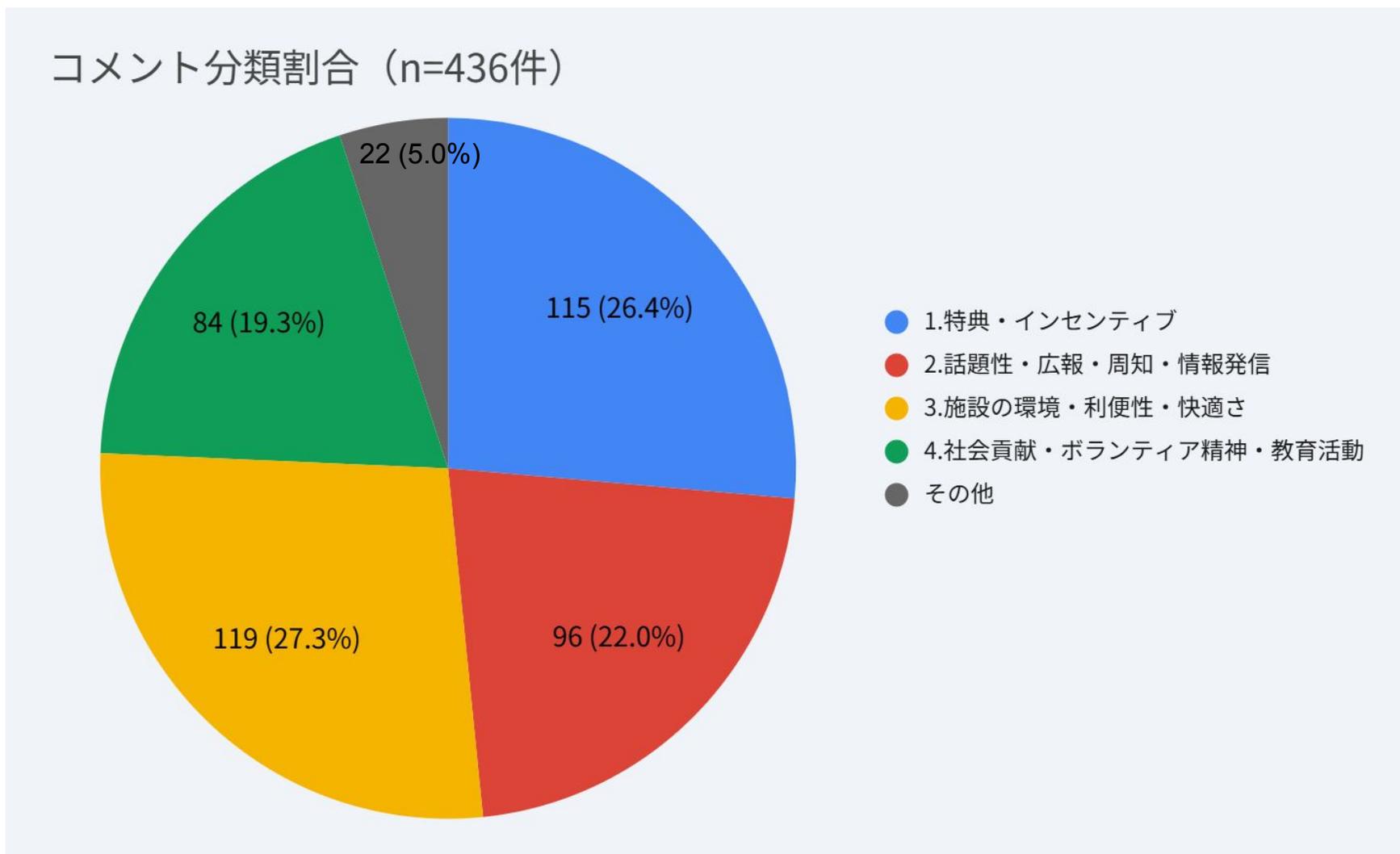
「あなたの年代」の分布 (n=348人)



全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ別コメント件数 (n=436件)

コメント全件をアイデアのカテゴリに分けた場合、下記の結果となった。



全コメントのカテゴリ分類

カテゴリ分類基準

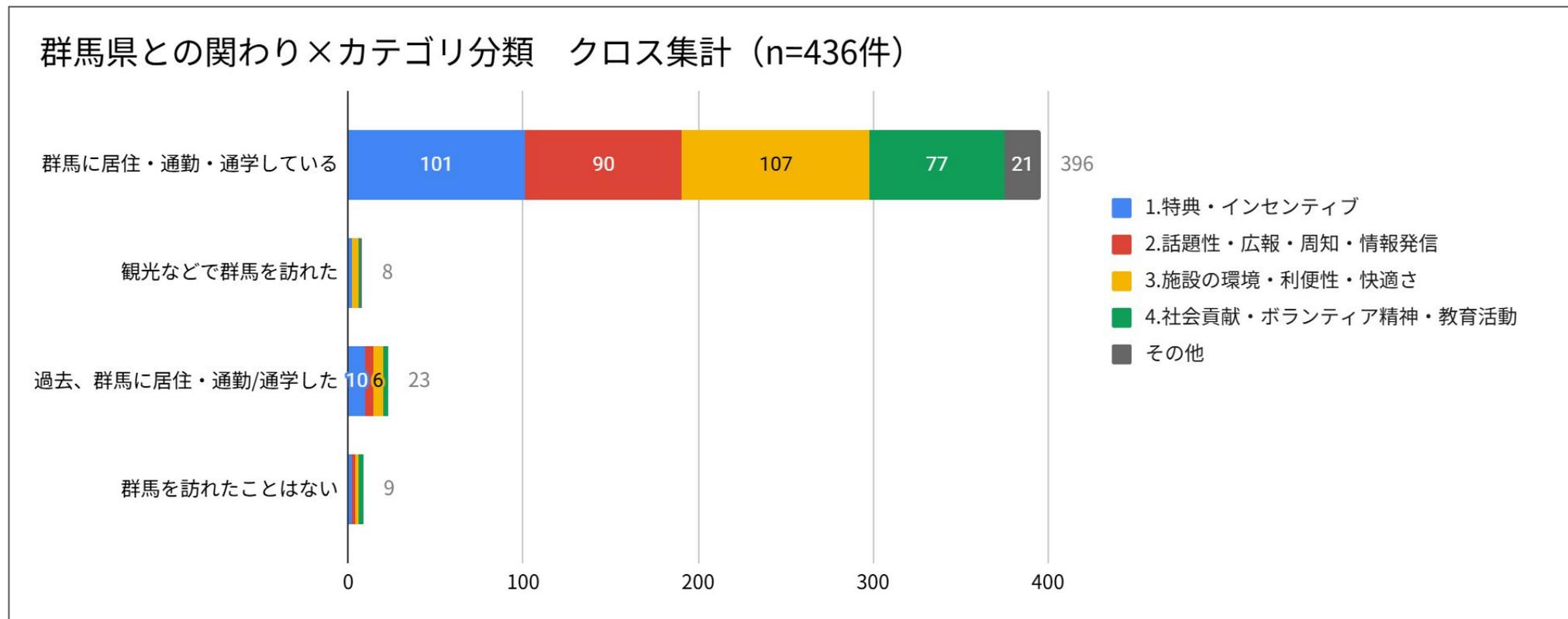
コメント全件は下記の基準にて、カテゴリ分けを実施した。

カテゴリ	コメント概要・キーワード
1 特典・インセンティブ	「モノ・仕組み」。実施した際に得られる特典、お礼 <ul style="list-style-type: none">景品、ポイント、スタンプ、回数(100回等)、お菓子、洗剤、キーホルダー、ガチャ、カード、カップ麺、トミカ、自販機の食品、クレインサンダースグッズ
2 話題性・広報・周知・情報発信	「人・流行・理解・不安解消」話題性で人を引き付ける、魅力 <ul style="list-style-type: none">アイドル、推し、アニメ、コラボ、有名人、映画、SNS、デート、話題、周知、リーフレット、15分、手軽、イメージ、知らせる、ネット宣伝強化。
3 施設的环境・利便性・快適さ	「心地よさ・行きやすさ」利用しやすい施設環境、雰囲気 <ul style="list-style-type: none">受付終了、満員、予約、場所、バス、献血車、量(200ml)、体重、薬、夜間、景色、夜景、WiFi、漫画、職員の態度、快適、保育、リラックス、モニター、ネット。
4 社会貢献・ボランティア精神・教育活動	「感謝・命・達成感」社会貢献による達成感、教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none">ありがとう、感謝、命、やりがい、当事者の声、助かった、学校連携、献血教育、教育機関での献血の確保、出前授業。
その他	献血に対する感想や意見など

クロス分析と考察

カテゴリごとの分析 | 群馬県との関わり×カテゴリ分類

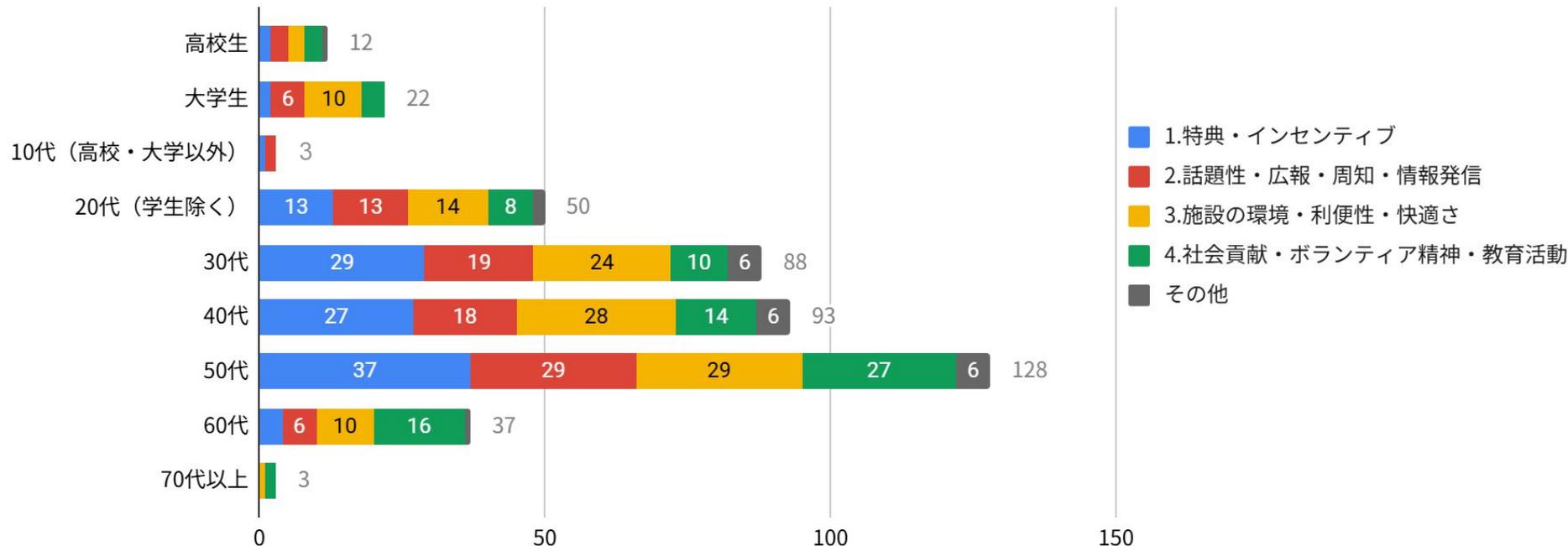
約9割を占める「群馬県内での居住・通勤・通学層」は、多角的な視点から本件に関心を寄せていることが明らかとなった。特に「3. 施設的环境・利便性・快適さ」が最多回答となった点は、献血ルーム等のハード面における居心地やアクセスの良さが、継続的な協力への最優先事項であることを示唆している。また、次いで高い「1. 特典・インセンティブ」や「2. 話題性・広報・周知・情報発信」への反応からは、実利的な動機付けと適切な情報発信が新規層の取り込みに有効であることが伺える。一方で「4. 社会貢献・ボランティア精神・教育活動」への関心も根強く、利便性の向上と並行して、献血が地域社会を支えるという意義への共感を高める施策も重要となる。今後は、これら生活者の実利と奉仕精神の両面に訴求する、包括的な参加促進策の展開が肝要である。



カテゴリごとの分析 | 群馬県との関わり×カテゴリ分類

献血への参加アイデアは50代を筆頭に幅広い層から寄せられており、世代ごとに動機付けの優先順位が異なる実態が明らかとなった。30代から50代のボリュームゾーンにおいては「1. 特典・インセンティブ」への関心が高く、実利的な還元策が働き盛り世代の参加を促す有効なトリガーとなっている。大学生や40代・50代では「3. 施設的环境・利便性・快適さ」を重視する傾向も強く、献血環境の質の向上が継続的な協力の鍵を握っている。また、60代では「4. 社会貢献・ボランティア精神・教育活動」が最多となり、高年齢層ほど献血の公共的意義や教育機関との連携を重視する傾向が顕著であった。今後は、若年・現役層向けの実利的なインセンティブと、全世代が利用しやすい施設環境の整備を並行して推進することが、献血者確保において肝要である。

群馬県との関わり×カテゴリ分類 クロス集計 (n=436件)



代表的なコメント

※読みやすさを考慮し、運営側で一部内容を抜粋・編集しております。

代表的なコメント | 1. 特典・インセンティブ

即効性のある魅力

- スタバのコーヒーチケットや飲食店で使えるクーポンなど。10回20回の節目の記念品がカタログギフトだと嬉しい。ポイントで変えられる品物も日用品だけじゃなくて色々選べると嬉しい。（群馬に居住・通勤・通学している/40代）
- 人気グループなどのライブチケットが抽選で当たるといいなと思います。（良いことをして、おまけにそのチャンスがもらえる）（群馬に居住・通勤・通学している/40代）
- 前橋東照宮で御祈祷していただいたお守り、めっちゃ嬉しいです！ちゃんと献血ちゃんコラボだし、午年って入ってるし、後ろには群馬県赤十字…って入ってるしすごい！毎年して欲しいです。（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）
- もう少しで献血回数100回になります。景品目当てで行っていませんが、最近景品がしょぼいと感じます。けんけつちゃんが可愛くて、カレンダーやタオルがいただけるととても嬉しいです！献血関連のものやオリジナルのもの、けんけつちゃんグッズがもらえると嬉しいです。（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）

ポイント制度・電子マネー連携など“生活メリット化”

- 大学に献血車を頻繁に置かせてもらい、献血をしてくれたら無期限で使える携帯のポイントを配布する。また、体調によって献血ができない人にもわずかなポイントでも配布する。それから、SNSで広めてくれた人には広めたことをその場で確認して追加でわずかなポイントを配布する。ポイントをためてスタバなどでお茶できたら、献血に貢献できた嬉しさとお茶をできたダブルの嬉しさがあると思う。（ぐんまに居住・通勤・通学している/50代）
- ポイントが好きなので、ポイントアップし、交換出来る商品もグレードアップ、または他のポイントと連携出来るようにするのはいかがでしょうか。（ぐんまに居住・通勤・通学している/60代）
- ポイントを貯めたら映画のチケットと交換できたら若者も積極的に参加してくれるのではないのでしょうか（ぐんまに居住・通勤・通学している/40代）

継続参加・回数承認・紹介制度など

- 紹介制度でポイントや景品が頂けるとかはどうでしょうか（ぐんまに居住・通勤・通学している/50代）
- お友達紹介制度。お互いにハーゲンダッツ貰えるとかなら、喜びそう。（群馬に居住・通勤・通学している/40代）

代表的なコメント | 2. 話題性・広報・周知・情報発信

人気アニメ・キャラクター・アイドル・有名人とのコラボ

- 人気アニメとのコラボだと思います。コラボアイテムが貰えるといいと思います。（群馬に居住・通勤・通学している/40代）
- ポイントで魅力有るグッズと交換出来るとか人気キャラクターとコラボする、イベントでの献血とかで若い方には周知出来るかなと思います。（群馬に居住・通勤・通学している/50代）

押し活・ポイント設計

- 芸能人や人気キャラクターとのコラボキャンペーンで、献血するとオリジナルグッズがもらえる等の工夫をしてはどうでしょうか（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）
- 限定コラボグッズプレゼントやYouTuberなんかで男女のアイドル・役者さんが普通に楽しんで献血してる映像を流せば効果があるのでは（ぐんまに居住・通勤・通学している/40代）
- 献血に協力できる若者に人気あるミュージシャンなどを採用してトミカのように限定品で呼びかける（ぐんまに居住・通勤・通学している/60代）
- 献血で社会貢献出来て無料で推しのグッズが貰えるなんてことがあれば押し活民には最高のご褒美です！（群馬に居住・通勤・通学している/50代）

不安の払拭・仕組み理解

- こんなに血をとっても大丈夫なのかなという不安があると思う。すぐリラックスできる場で血を抜いてもらいたい。血を抜くまでの流れ、イメージ映像があるとわかりやすい（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）
- 私も現在積極的に献血に行っていますが、行き始めたのは去年からです。それまでは献血に対し、貧血で倒れないかという不安と抵抗感がありました。啓発する際、そうした不安を払拭するような見せ方をしていただけるとよいかと思います（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）
- 献血された血液がどのように活用されるのかを画像や動画を用いて詳しく説明してもらえると、自分ごととして捉えやすくなり、結果的に献血を促進出来ると考えられます。（群馬に居住・通勤・通学している/30代）

代表的なコメント | 3. 施設的环境・利便性・快適さ

予約システムと待ち時間のストレス解消

- せっかく職場や学校に移動献血車が来ても、診察や献血後の休憩時間で時間がかかり、昼休憩中で献血が終わらなかつたり、業務時間中にも行く暇がない方が多いと思います。献血のための時間が制度として設定されると助かります。（ぐんまに居住・通勤・通学している/20代）
- 今年から献血初挑戦しました。全血だと個人差はあると思いますが15分くらいで献血し終わるので時間の短さにびっくりしました。献血が手軽にできるものであることを周知すれば、ちょっと時間がある時にしてみようかなっていう方が増えるんじゃないかなって思いました。（ぐんまに居住・通勤・通学している/20代）
- 大学に来ている献血バスで献血をしようとしても、公欠になりません。公欠扱いしてくれる大学や授業もあるかもしれませんが、一律に公欠扱いになるよう、大学の協力を仰いでいただきたいです。（ぐんまに居住・通勤・通学している/大学生）
- 10代の頃にアニメイベントで献血をやっていたので参加しようとしたが、待ち時間があまりにも長くて参加を諦めた。当日でも待ち時間が短くなる工夫が欲しい（過去、群馬に居住・通勤/通学した/20代（学生除く））
- 受付、検査、献血までのプロセスを短くなるように努力してほしい。待ち時間が、長い、と言うだけで足が遠のいている人も多いと思う（群馬に居住・通勤・通学している/50代）

滞在空間のアップデートとエンタメ・利便性の向上

- 献血会場の場所について、車移動をしない学生などの若者が立ち寄る場所にあるといいと思う（駅やショッピングモールなど）（ぐんまに居住・通勤・通学している/50代）
- 東京でやっている、学生は平日献血ルーム学習室として利用できる（群馬を訪れたことはない/大学生）

子育て世代・働く世代への物理的・制度的サポート

- 献血センターへの子供の同伴と待合待機を可とする→キッズスペースを設ける（イメージはカーディーラー）子育て中の若者世代は献血の時間を確保するのも大変難しいです。独身の時に献血習慣ができたとしても、子供ができたなら献血に行くこと（献血に行く間、子供を安全にどこかに預けなければならないこと）のハードルが高くなり、私の30歳以降の実体験としても、献血を続けるのが難しくなります。（群馬に居住・通勤・通学している/40代）
- 10~40代が献血に行きやすくするには、不安や手間を減らし、生活動線に溶け込む仕組みを整えた方がいいと思う。痛みや流れを分かりやすく示して心理的な壁を下げ、スマホ予約や混雑表示で時間的負担を減らしてはどうか（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）
- 今まで献血してきた人が、しなくなる分岐点として、子育て期間があると思います。私もその1人で、子どもをわざわざ預けてまでは、献血に行くのは流石に厳しい状況です。保育士1人常駐で、幼児を見てもらえれば、私なら子育て期間中でも変わらず、献血に行けると思います（ぐんまに居住・通勤・通学している/30代）

代表的なコメント | 4. 社会貢献・ボランティア精神・教育活動

学校・教育現場でのきっかけ作り

- 学生時代、献血について良く知りませんでした。子どもたち向けの献血模擬体験だけでなく、義務教育の授業で取り扱ってみるのはいかがでしょうか？（群馬に居住・通勤・通学している/30代）
- 私が学生の頃は献血車が学校まで来て献血に参加するという行事？があった。生徒も教師も献血をした。自分の血液型のキーホルダーとジュースを貰った記憶がある。子供の数は減っているが、中・高・大学へと献血車が出向けばいいと思います。（群馬に居住・通勤・通学している/50代）

社会貢献の実感と感謝の可視化

- 自分の献血が他人の役に立っているという実感がもてること。つまり「助かった」「ありがとう」という当事者の生のコメントが届く、目にすることができる環境を整えると、社会貢献の実感が持つリピートにつながると感じる。（群馬に居住・通勤・通学している/40代）
- 以前、献血を行った際に、輸血者からお礼のはがきをいただきました。献血を行って、すごくよかったなと思いました。このような、輸血者の言葉などをPRしたらどうでしょうか。（群馬に居住・通勤・通学している/50代）

就職・進路への活用（実利的な価値）

- 主に高校生や大学生向けとして、就職の際の履歴書に、ボランティア活動として献血の協力を正式な活動にして、記入する事に重要性を持たせると、協力する若者も増えるのでは？と思います。（群馬に居住・通勤・通学している/50代）
- 各大学や高校に「ボランティア活動として献血呼びかけは履歴書にかけたり面接で話せますよ！」と伝えてみる（群馬を訪れたことはない/大学生）

全体考察

政策提言レポート：次世代献血基盤の再構築に向けて

1. 概況：多角的な「きっかけ」による献血意欲の向上

今回の意見募集では、436件の多種多様なアイデアが寄せられた。これらのアイデアの根底にあるのは、「献血そのものを否定する声」ではなく、「あと一步の背中を押すフック（きっかけ）」である。

かつての一般的な献血推進は、「血液が足りないという現状（無関心への訴求）」や「怖くないという啓発（恐怖心の払拭）」といった、心理的な壁を取り除くことに主眼が置かれていた。しかし、今回の分析結果が示すのは、現代の県民はより具体的かつ即物的な「プラスアルファの価値」を求めているという事実であった。

2. アイデア分類に基づく重点施策

P7での分類結果の通り、アイデアのカテゴリはどれかが特筆してコメントが多い分類だったわけではなく、4つの分類にほぼ均等に分散された。その上で、アイデア分類から読み解く重点施策について記載したい。

① 施設の「利便性」と「快適さ」の追求

寄せられたアイデアの中でわずかの差ではあるが、最も大きな比重を占めたのが、「1. 施設的环境・利便性・快適さ」に関するものである。献血を「医療行為」の枠から出し、「快適な体験」へと昇華させる必要がある。

- **アクセスと利便性の向上**：移動献血車の配車場所の工夫や、夜間・土日の受付拡充など、「生活動線上」に献血の機会を増やすことが求められる。
- **滞在空間のアップデート**：Wi-Fi完備、漫画・雑誌の充実、カフェのような飲料提供など、献血の前後を含めた「居心地の良さ（快適さ）」を強化し、来訪意欲を高める。
- **ライフステージに合わせたサポート（子育て世代支援）**：30～40代が離脱する要因の一つである「子供の預け先」問題を解決するため、キッズスペースの設置や保育士の巡回・常駐を検討し、親子で来場できる環境を整える。
- **「時間」の有効活用と制度化**：大学・企業との連携：献血参加を「公欠扱い」や「業務時間扱い」とするようことの検討。
- **待ち時間のゼロ化**：リアルタイムの混雑表示やスマホ予約を徹底し、タイムパフォーマンスを重視する若者のニーズに応える。

政策提言レポート：次世代献血基盤の再構築に向けて

② 特典・インセンティブの戦略的活用

寄せられたアイデアの中で次に大きな比重を占めたのが、特典に関するものである。

- **実利による動機付け**：共通ポイントや、地元飲食店で使えるクーポンなどの「生活に直結するメリット」の提示が、強力な参加動機となる。
- **「群馬・限定性」の付与**：前橋東照宮のコラボお守りのような、地域資源を活かした「ここでしか手に入らない」記念品の検討。
- **「紹介・拡散」の報酬化**：友人紹介で両者にインセンティブを付与する仕組みや、SNSでの発信を現場で確認しポイントを付与する「デジタル口コミ促進」を導入する。

③ 話題性の醸成と広報の多角化

「献血」という言葉が日常の視界に入るための仕掛けが必要である。

- **「推し活」との連動**：アニメ、VTuber、ご当地アイドル等とのコラボレーションは、これまで献血に無関心だった層を会場へ運ばせる強力な参加動機となる。
- **SNSによる情報発信**：堅い印象を受ける行政文書ではなく、若者の目に留まるビジュアルや、インフルエンサーを活用した親しみやすい広報展開が不可欠である。
- **プロセスの可視化と安心供与**：「献血を実施したことがなく不安」「倒れないか」という不安に対し、事前のシミュレーション動画や、献血された血液がどのように活用されるかを可視化し、心理的安全性を高める。

④ 社会貢献・ボランティア精神・教育活動の推進

献血を一時的なイベントで終わらせず、社会的な習慣として定着させるための構造的なアプローチを行う。

- **教育現場での啓発活動**：小中高生を対象とした出前講座や献血ルーム見学を実施し、次世代の協力者を育成する。献血を「社会を支える仕組み」として早期に理解させる。
- **ボランティア実績の認定**：献血実績をボランティア活動として公式に認定し、学生のキャリア形成や企業の社会貢献活動（CSR）と連動させる仕組みを検討する。

政策提言レポート：次世代献血基盤の再構築に向けて

3. 政策的視座：無関心をどう「上書き」するか

かつての課題が「恐怖心や無関心の克服」であったとするならば、今回のアイデア群はそれらを「別の価値で上書きする」アプローチであると言える。

- **恐怖心への対抗**：「痛そう」という恐怖を、それ以上に魅力的な「特典」や「推しとの接触」という期待感で上回らせる。
- **無関心の打破**：社会貢献を動機とするのではなく、「有名なキャラクターとコラボしているから」「ポイントがもらえるから」「快適なスペースで休憩できるから」といった、関心の外側にある動機から入り口を作る。

4. 結論

本意見募集で示された多角的なアイデアは、献血という善意の活動を、より現代的なライフスタイルに即した「魅力ある社会サービス」へと再編するための重要な指針に満ちている。

P7の分析結果が示した「4つのカテゴリへの均等な分散」は、県民の期待が単一の解決策にあるのではなく、ハード（施設・利便性）とソフト（特典・話題性・情報発信）の両面が調和した「**体験のアップデート**」にあることを物語っている。献血は、一部の県民による特別な奉仕活動ではなく、日常の中で気軽に選択し、かつ参加することで自分自身の生活にも何らかのベネフィットを享受できる「実効的な仕組み」へと進化すべき段階にある。

PoliPoli Gov